

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-33429

(43) 公開日 平成6年(1994)2月8日

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 1 H 1/12		7505-2D		
A 0 1 K 23/00	A	9123-2B		

審査請求 有 請求項の数4 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平4-161257

(22) 出願日 平成4年(1992)6月19日

(31) 優先権主張番号 特願平4-127774

(32) 優先日 平4(1992)5月20日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 592059699

安心院 幸敬

神奈川県横浜市保土ケ谷区明神台7-403

(72) 発明者 安心院 幸敬

神奈川県横浜市保土ケ谷区明神台7-403

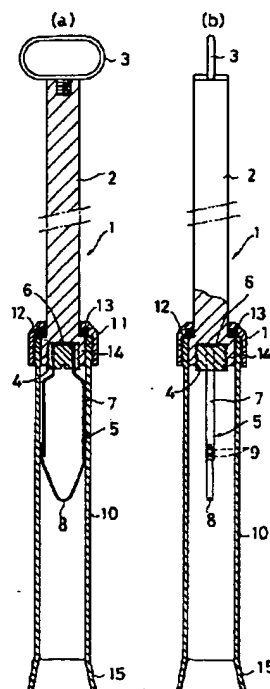
(74) 代理人 弁理士 北村 欣一 (外2名)

(54) 【発明の名称】 拾集用具及び拾集袋

(57) 【要約】

【目的】 路上に排泄されるペットの糞を手軽に掃除でき、かつ見映えの悪くない用具を得る。

【構成】 薄い板ばね材で作った袋取付け枠5を外筒10内に進退自在に設け、該枠5にプラスチックフィルムの糞収容袋20を取付ける。これを矢印A方向に路面Rに沿って動かし、糞Eを掻き取って袋20内に入れ、枠5と袋20を外筒10内に引込む。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 口幅を伸縮できる袋取付け枠と、該袋取付け枠の上端を下端に連結した把持棒と、該把持棒に摺動自在に外嵌され、下降位置で口幅を縮めた袋取付け枠を囲む外筒と、を備えることを特徴とする拾集用具。

【請求項2】 口幅を伸縮できる袋取付け枠と、該袋取付け枠をその口幅を縮めて収容できる筒体と、袋取付け枠の上端に連結され、前記筒体に沿って上下動して、袋取付け枠を筒体下端から出沒させる摘みと、を備えることを特徴とする拾集用具。

【請求項3】 口幅を伸縮できる袋取付け枠の両側の側辺の外側に添って、該側辺の上部に上端を固定した袋止めばねを設け、該袋取付け枠を把持棒の一端に取り付けたことを特徴とする拾集用具。

【請求項4】 口部の1箇所に深さ方向の切込み部を有することを特徴とする拾集袋。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、地上の落下物、例えば犬や猫が路上で排泄した糞や、地上に散乱したゴルフボール、又は水中の浮遊物等を拾集するのに便利で、携帯にも便利な拾集用具及びこれに使用する拾集袋に関する。

【0002】

【従来の技術】犬を散歩させるとき、路上で排泄する糞を掃除するのは飼育者にとって極めて面倒であるが、従来は便利な用具がなく、小さいスコップで袋に取り込むのが一般的である。しかし、この方法では地面近くに身をかがめて取り込み作業をしなければならず面倒であり、スコップや袋を持ち歩くのも見映えがしないため、掃除を心掛けない飼育者が多い。

【0003】また、ゴルフのアプローチ練習場や自宅の庭でアプローチの練習したとき、散乱した多数のボールを拾い集めなければならないが、地面近くまでいちいち身をかがめなければならない腰の疲労が著しい。このようなボールを拾うための用具としては、容器と取入口を一体にしたものが実用されているが、取扱いが必ずしも容易ではなく携帯にも不便である。

【0004】また、各種の採取具、昆虫採集網等は、採取物を袋、網等から取出さなければならず、取出し後採取物が混同する不都合がある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、殆ど身をかがめることなく目的物を取込むことができ、携帯に便利で見映えもよく、拾集袋の着脱及び拾集物の管理が容易な拾集用具を得ること、及びこの拾集用具に使用する使い捨ての拾集袋を得ることを課題とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明における前記課題を解決するための拾集用具の一つは、請求項1のとお

10

り、下部の口幅が広く、かつ該口幅を伸縮できる袋取付け枠と、該袋取付け枠の上端を下端に連結した把持棒と、該把持棒に摺動自在に外嵌され、下降位置で口幅を縮めた袋取付け枠を囲む外筒と、を備えることを特徴とする。また他の拾集用具は、請求項2のとおり、下部の口幅が広く、かつ該口幅を伸縮できる袋取付け枠と、該袋取付け枠をその口幅を縮めて収容できる筒体と、袋取付け枠の上端に連結され、前記筒体に沿って上下動して、袋取付け枠を筒体下端から出沒させる摘みと、を備えることを特徴とする。更に別の拾集用具は、請求項3のとおり、口幅を伸縮できる袋取付け枠の両側の側辺の外側に添って、該側辺の上部に上端を固定した袋止めばねを設け、該袋取付け枠を把持棒の一端に取り付けたことを特徴とする。

【0007】また、これらの拾集用具に使用する拾集袋は、請求項4のとおり、口部の1箇所に深さ方向の切込みを有することを特徴とする。

【0008】

20

【作用】前記請求項1の拾集用具は、袋取付け枠に適宜の拾集袋を取付けておき、外筒を下降させて袋取付け枠部を隠して携帯し、使用時に外筒を上昇させて袋取付け枠を露出させると共に拵げ、地上の落下物を袋内に掻き取る。掻き取り後外筒を下げ、袋取付け枠及び袋を収縮させて外筒内に隠す。

30

【0009】請求項2の拾集用具は、摘みを下げて袋取付け枠と拾集袋を筒体の下端から露出させて拵げ、地上の落下物を掻き取った後、摘みを押上げて袋取付け枠と袋を収縮させて筒体内に引込む。

【0010】請求項3の拾集用具は、拾集袋の口部を袋取付け枠の外周に嵌めると共に該口部を両側から袋止めばねで挟んで保持し、次に拾集袋の底を袋取付け枠内に押込んで裏返しにすると、該口部は袋取付け枠で折返されて支えられるため、袋止めばねによる摩擦保持部に作用する力は低減され、掻き取り時や運搬時に作用する力に抵抗して袋を保持できる。

【0011】請求項4の拾集袋は、その切込み部を上向きにし、口部を袋取付け枠に挿入して枠外に反転させた状態で取付け枠に保持させる。そして、使用時には口部の折れ目を前に向けて前進させることにより落下物を掻き取る。

【0012】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に従って説明する。図1、図2においては第1実施例を示し、1は拾集用具、2は把持棒で上端にリング状の握り3が設けられ、下端には、ねじ栓4で袋取付け枠5が取付けられている。

40

【0013】袋取付け枠5は、不銹鋼、ばね鋼等の薄いばね材よりなり、上端のコ字状部6に繞いて台形に拵がる一対の側辺7が形成され、その下端に長さWの底辺8が接続されている。該底辺8は、両端が上向きに曲折さ

50

3

れて側辺7に鉋9で止着されている。したがって、袋取付け枠5は、下部に最大の口幅Wを備える。

【0014】把持棒2には外筒10が上下方向に摺動自在に外嵌されており、この外筒10の上端にストッパ11が固定され、その天井部12の内周凹部に設けたパッキン13が把持棒2の下端の段部14に着座することができ、かつパッキン13が外筒10のねじ込みによりその上端で圧縮されて内径を縮小し、把持棒2の外周に締付けられて把持棒2と外筒10を固定するようになっている。また、下端には外開きのテーパをもつガイド部15が設けられる。

【0015】この外筒10を図2のように上昇させると袋取付け枠5は弾性で開き、図1のように下降させると、袋取付け枠5は、外筒10のガイド部15とこれに続く筒部の内面に押されて縮み、その内部に収容される。この袋取付け枠5には、例えば図3で示す拾集袋20が取付けられる。拾集袋20は、軟質のプラスチックフィルム製で、口部21に深さ方向の切込み部22を有し、かつ口部21に沿って接着剤23が塗布されて固着部を形成しており、該接着剤23の表面には剥離テープ23<sub>1</sub>が仮付けされている。図4に示すように、収容袋20の口部21を袋取付け枠5に挿入して外向きに回転し、仮付けされた剥離テープ23<sub>1</sub>を除去して接着剤23を袋の体部に押しつけると、口部21は体部と一体になり収容袋20は取付け枠5に取付けられる。このとき、切れ目22付近の接着剤23部分を枠5に接着して袋のずれを防止するのが好ましい。拾集袋20を取付けた拾集用具1の握り3と外筒10を把持して、口部21の折り目を前向きにして図4の矢印A方向に路面R上に排泄されたペットの糞Eに対して拾集袋20及び枠5を推進させると、袋20のフィルムを介して底辺8で掻き取られて袋20内に収容される。そこで、外筒10を下降させると、枠5及び袋20は、図5に示すように縮小されて外筒10内に納まり、外観は段付きの棒状体となる。したがって握り3を持って吊下げたり、中間部をつかんで横に持って歩くことができる。拾集袋20の口部21に設ける固着部は、図6に示すように突条24<sub>1</sub>と凹条24<sub>2</sub>をかみ合わせる、いわゆるビニールチャックであってもよい。また、このような固着部のない袋を用い、その口部を折返してホチキスの如き止め具で取付けることもできる。以上、ペットの糞を掃除する場合について述べたが、ゴルフボールを拾集するためにも使用でき、この場合は、数個のボールを拾集するごとにこれらを別の容器に移し変えて使用する。

【0016】次に、図7、8に示す第2実施例の拾集用具25は、前記第1実施例における外筒10の位置調節機構を簡易にしたものであり、第1実施例と共通する部品については同一符号を付し詳細な説明は省略する。この拾集用具25は、把持棒が中空の内筒26であり、下端の大径部26<sub>1</sub>にねじ栓4で袋取付け枠5が固定さ

4

れ、外筒10の厚肉の係止部10<sub>1</sub>が、内筒26に摺動自在に外嵌されて、前記係止部10<sub>1</sub>によって抜け止めされるようになっている。

【0017】厚肉部の内面には内周溝27を有し、内筒26の上下に設けた係止ばね28を周溝27に係止させることにより、拾集用具25を縮小状態又は伸長状態に保つことができる。係止ばね28は、突部28<sub>1</sub>の両側に斜辺28<sub>2</sub>を有するばね片を2枚背中合わせにして各斜辺28<sub>2</sub>を接合したもので、図9に示すように、内筒26内部に収容され、その管壁を直径方向に貫いて設けた二つの係止孔29から突部28<sub>1</sub>を突出させて保持されており、該突部28<sub>1</sub>が図9(a)に示すように内周溝27に係合すると、その位置で外筒10を固定することができ、外筒10を軸線方向に強く移動させることにより、突部28<sub>1</sub>はカム作用で押し込まれて内周溝27から外れる。

【0018】したがって、内周溝27を下部の係止ばね28に係合させるときは、図7に示す伸長状態になり、上部の係止ばねに係合させるときは、図8に示す縮小状態になり、内筒26と外筒10を軸線方向に押し引きすることにより、簡単に使用状態又は携帯状態にすることができる。

【0019】前記把持棒2又は内筒26と外筒10との係止手段は、前記パッキン13又は係止ばね28に代えて適宜の構造のものが使用でき、例えば弾発されるボールと凹部からなるクリック機構又は進退操作できる係止爪を凹部に係脱させる係止機構等を用いることができる。

【0020】次に、図10～13の第3実施例について説明する。この拾集用具30は、伸縮してもしなくてもよい筒体31内に前記袋取付け枠5を昇降可能に設けたものである。筒体31は、小径の上筒32と下筒33を継手34で接続したもので、該継手34は、上筒32の下端のフランジ35と、該フランジ35上に載置したゴムリング36と、下筒33にねじ38で螺合して該ゴムリング36を圧縮する袋ナット37よりなり、両筒32、33を弾力的に接続している。

【0021】上筒32の下端にはガイド栓39が圧入されており、これには図13に示すように上下に貫通する2個のガイド穴40が設けられている。そして、袋取付け枠5の1対の側辺7には、それぞれ鋼帯41が接続されており、該鋼帯41は、ガイド穴40を通して上方に伸びる。また、上筒31には縦方向の長孔42とその上端の横向きの係止孔43が開設され、上端にばね座44と握り45が設けられる。前記鋼帯41の上端は、操作部材46にボルト47で接続され、該操作部材46には、上端にばね座48が設けられ、側方に前記長孔42を通して伸びる摘み49が植設され、両ばね座44、48間にはばね50が圧縮状態で介設される。

【0022】以上の構成であるから、摘み49を上昇さ

5

せばね50を圧縮し係止溝43に係止させると、袋取付け枠5及びこれに取付けられる収容袋は、下筒33内に引込まれて外からは見えなくなるから、この状態で携行し、杖のように使用することもできる。そして、落下物取込み時は、摘み49を係止溝から外すと、操作部材46から下の部分はばね50に押されて下降し、図11に示すように袋取付け枠5は下方に露出する。したがって、この枠5に図4に示すように袋20を付けておけば、同図について説明したように取り込みができる。図中51は枠5の出入りを容易にするためのガイドである。この実施例において、筒体31は、径の異なる上筒32と下筒33から成るが、下筒33と同一径の1本の筒によって構成することもできる。

【0023】次に、図14に第4実施例として示す拾集用具55は、内筒と外筒の伸長状態での結合を、ねじ結合とすることにより強力に結合できるようにしたものである。図14(a)(b)で内筒56の下端にはこれより大径の固定部材57が固定され、該固定部材57の肩部には雄ねじ58が刻設され、下面にはねじ穴59が刻設される。該ねじ穴59には図1に示したものと同一縦溝付きのねじ栓4が、袋取付け枠5の上部のコ字形部を係合した状態でねじ込まれる。そして、内筒56の上部には直径線上に一对の穴60が穿設され、これにストッパ61が係止されている。該ストッパ61は、頂部が球面の1対の止めピン61<sub>1</sub>をU字形のばね61<sub>2</sub>で外向きの弾発力をもたせて接続したものである。

【0024】外筒10は、図1その他に示すものと同じであるが上端に厚肉の係止筒62が固定されている。該係止筒62の下端には、前記雄ねじ58がねじ込みできる雌ねじ63が刻設されており、その上方の内周面に係止溝64が設けられている。該係止溝64の深さは、止めピン61<sub>1</sub>の球面部の高さよりも僅かに浅いものとする。

【0025】この実施例において、図14(a)に示すように内筒56と外筒10を伸長状態にして、両筒をねじ58と63が締まる方向に回転すれば、両ねじ58、63の螺合の終端で強固な固着状態になり、杖としても使用できるようになる。また、内筒56と外筒10を逆方向に回転して両ねじ58、63の螺合を解けば、図14(b)に示すように両筒56、10を短縮することができ、一对の止めピン61<sub>1</sub>を指頭で押しながら、更に短縮して止めピン61<sub>1</sub>を係止筒62内に入れ、係止溝64に係合させることにより、袋取付け枠5を露出状態とすることができる。

【0026】更に、図14の実施例は、改良した袋取付け枠をもつものであり、固着部をもたない拾集袋の使用を可能にしたものである。図において袋取付け枠5の側片7、7の外面には、袋止めばね65が上端でリベット又は溶接による固定部65<sub>1</sub>で固定され、その下方部分は側片7、7に接して伸び、下端は自由端となっている。

6

【0027】この袋取付け枠5に取付ける拾集袋66は、図3、図6に示すような固着部を必要とせず、切込み部66<sub>1</sub>のみが設けられる。拾集袋66を装着するには、図15(a)に示すように切込み部66<sub>1</sub>を上にして口部で袋取付け枠5の外面を囲むと共に、袋止めばね65の内側に入り込ませ、次に袋の底66<sub>2</sub>を袋取付け枠5内に押し入れて図15(b)に示すように反転させると、袋の口部は、袋取付け枠5の端面で折返えされて折り目66<sub>3</sub>が形成される。そして、袋の口部は、側片7と袋止めばね65によって挟持されているので、折返し形状が維持されると共に摩擦が働き、挿取り作業時及び携帯時に袋が外れることはない。落下物を拾集した袋66を外筒10で覆うと、袋66は、図16に示すように下方にずれて主として底辺8で支えられるが折り目66<sub>3</sub>の内側に作用する摩擦力が大きく、折返し部の一部を袋止めばね65による摩擦力で保持するだけでずり落ちることは防止される。前記の袋止めばね65をもつ袋取付け枠5及び拾集袋66を、前記拾集用具1、25、30等を使用できることはもちろんである。

【0028】次に、図17は第5実施例を示し、図1に示されるものと同じ把持棒2の下端に、袋止めばね65をもつ袋取付け枠5が取付けられているが、外筒10を備えていないものである。この実施例は、外筒をもたず把持棒2も細いものにして軽量にすることができ、袋の着脱も容易である上、袋止めばね65によって袋が確実に保持できるから、水中の浮遊物を採取したり、昆虫の採集に用いるのに適する。この場合、袋としてフィルム、布又は網よりなるものを用い、採取のたびに袋ごと外して別容器に移すようにすれば、袋から採取物を取り出さなくてもよいと共に、採取物の混同を避けることができ、管理が容易になる。

【0029】次に、図18に示す第6実施例の拾集用具70は、ゴルフボールを拾集する場合のように、拾集袋に取込んだのち別の容器に移す用途に適した用具であり、外筒71は、上下2対の止め穴72、73を備える。内筒74には前記ストッパ61と同一構造のストッパ61即ち球形頭部をもつピン61<sub>1</sub>とU字形のばね61<sub>2</sub>が設けられ、内外筒の伸長状態ではピン61<sub>1</sub>が上部の止め穴72に係止され、短縮状態では下部の止め穴73に係止される。

【0030】内筒74の下端には固定部材75が固定され、その下面のねじ穴76に、袋取付け枠5を係止したねじ栓4が螺着される。そして、袋取付け枠5には図14~17に示したのと同じ袋止めばね65が固定部65<sub>1</sub>によって添設されている。

【0031】この実施例においては、ピン61<sub>1</sub>の頭部を指頭で押さえて外筒71と内筒74を長手方向に僅かに移動させればピン61<sub>1</sub>による係止は解かれ、内外筒を伸長又は短縮状態に調節することができ、また拾集物を別の容器に移すから、外筒71、内筒74を細いもの

とすることができ、伸長状態でバック中に収めるのに便利である。

【0032】以上の各実施例において、袋取付け枠5には金属ばねが用いられ、下辺8には、巻尺に用いられるような断面円弧状のばね板を円弧を下向きにして用いるのが好ましく、このような部材は、下向きには湾曲し易く、上向きには湾曲しにくく、掻き取り時に地面に接した状態を維持し易い。しかし、側辺7の弾力が充分であれば、下辺8は、扁平又は断面円弧状の合成樹脂材であつてもよく、更に、硬質板を屈曲可能にヒンジ結合した

【0033】また、前記の袋取付け枠5は、1対の側辺7と底辺8により略台形に形成されており、直線状の底辺が路面Rによくなじみ、掻き取りが良好に行われるが、弾力性のある1本の帯板を弾力に抗して円弧状に湾曲させたものを用い、その上部を平行に接近させて前記ねじ栓4に固着したものとし、又は前記ガイド栓39を経て操作部材46に固着したものとすることができる。この場合、接地部分は円弧状となるが、軽く押しつけることにより扁平になり、広く掻き取ることができる。

【0034】

【発明の効果】以上のように本発明の請求項1、2の拾集用具は、拾集袋とこれを取付けた袋取付け枠を筒体の下端から進退できるようにしたから、外形が棒状又は杖状であり、携行に便利で見映えがよく、拾集作業も、小スコップを用いるときのようにかがむことなく、立ったまま又は中腰で行なうことができるから面倒でなく、排泄物を拾集する場合に該排泄物からの距離も大きいから不潔感も少なくてすむ効果がある。

【0035】また、請求項3の拾集用具は、袋取付け枠の外周に反転状態で被せた拾集袋の口部を袋止めばねで押さえるだけで保持できるから、固着部を備えない簡単な拾集袋を使用することができ、着脱も容易にできる利点を有する。

【0036】更に、請求項4の拾集袋は、口部に設けた切込み部により、袋取付け枠の上部に邪魔されることなく口部を反転することができて、拾集袋を袋取付け枠に

止着するのを容易にする効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の拾集用具の第1実施例の伸長時を示し(a)は縦断正面図、(b)は縦断側面図

【図2】 同実施例の短縮時を示し(a)は正面図、(b)は側面図

【図3】 拾集袋の実施例の平面図

【図4】 掻き取り作業を示す斜視図

【図5】 収納状態の説明図

10 【図6】 袋の他の実施例の一部を示す斜視図

【図7】 拾集用具の第2実施例の伸長時を示し(a)は縦断正面図、(b)は縦断側面図

【図8】 同実施例の短縮時を示し(a)は正面図、(b)は側面図

【図9】 係止部の拡大断面図で(a)は係止状態、(b)は離脱状態

【図10】 拾集用具の第3実施例の不使用时を示し(a)は縦断面図、(b)は側面図

20 【図11】 同実施例の袋取付け枠を下降させた縦断面図

【図12】 同実施例の継手の詳細図

【図13】 同実施例のガイド栓の正面図

【図14】 拾集用具の第4実施例の縦断面図で(a)は伸長時、(b)は短縮時

【図15】 同実施例の袋取付け手順説明図で(a)は途中、図(b)は装着完了時

【図16】 同実施例の拾集状態説明図

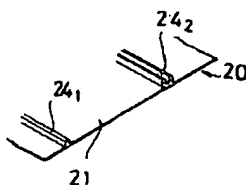
【図17】 拾集用具の第5実施例で(a)は正面図、(b)は側面図

30 【図18】 拾集用具の第6実施例の縦断面図で(a)は伸長時、(b)は短縮時

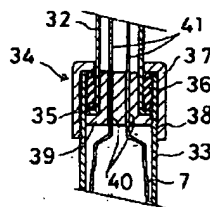
【符号の説明】

1、25、30	拾集用具	2	把持棒
3、45	握り	5	袋取付け枠
10、71	外筒	20、66	拾集袋
26、32、56、74	内筒	65	袋止めばね

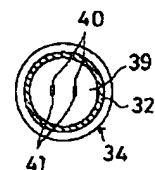
【図6】



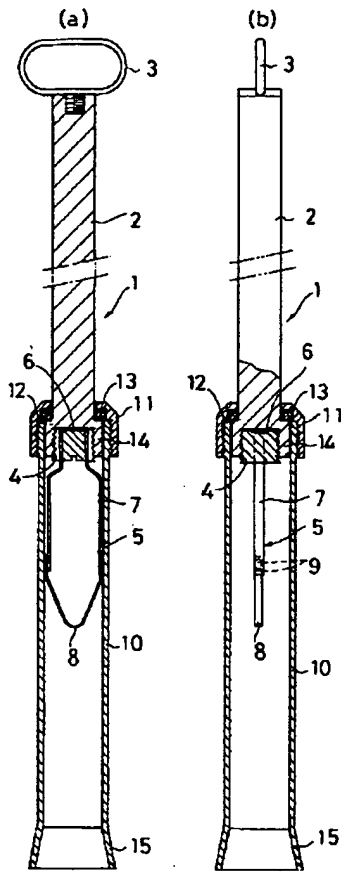
【図12】



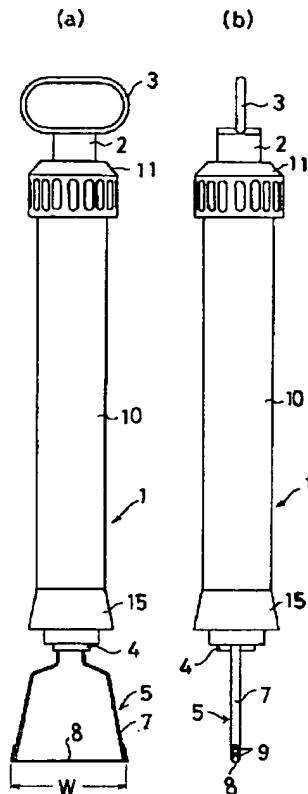
【図13】



【図1】

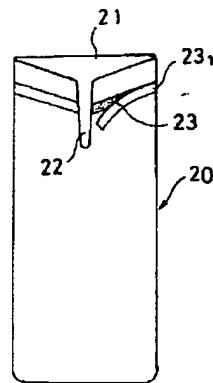


【図2】

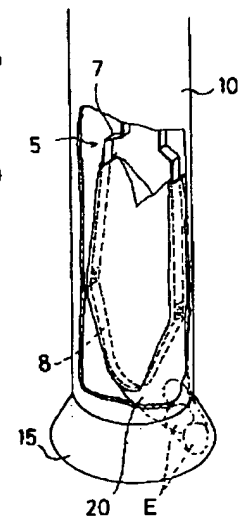


【図4】

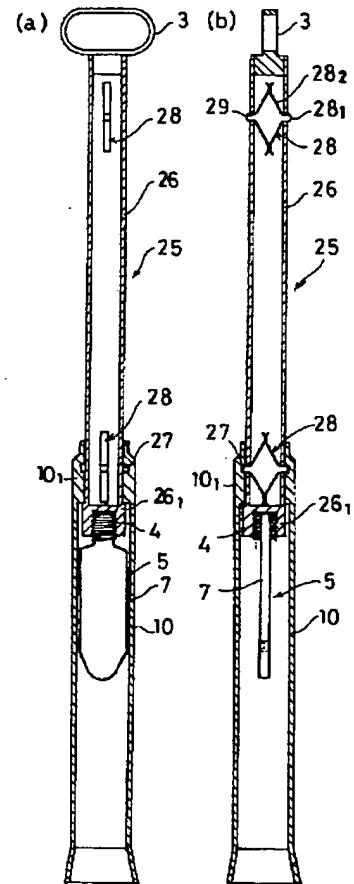
【図3】



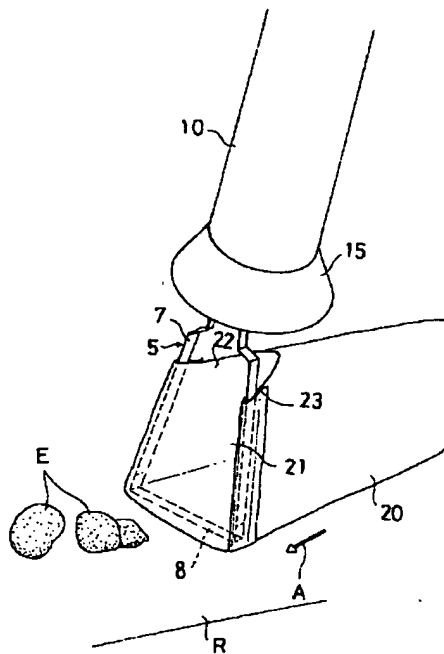
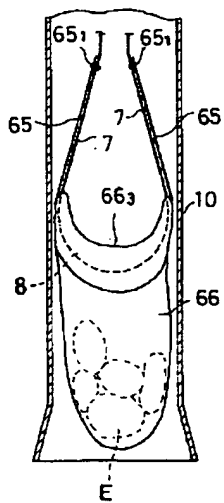
【図5】



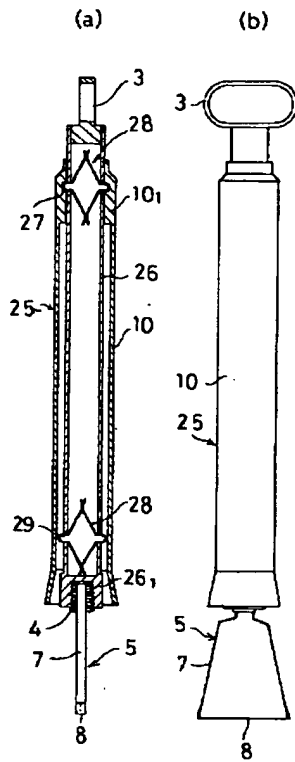
【図7】



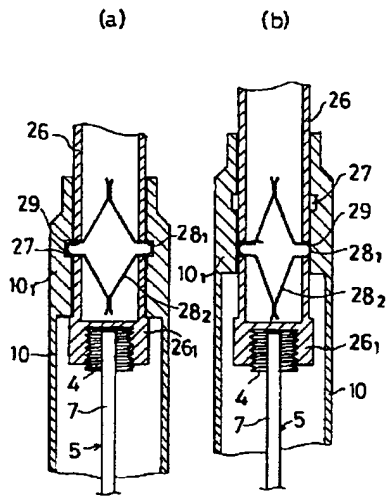
【図16】



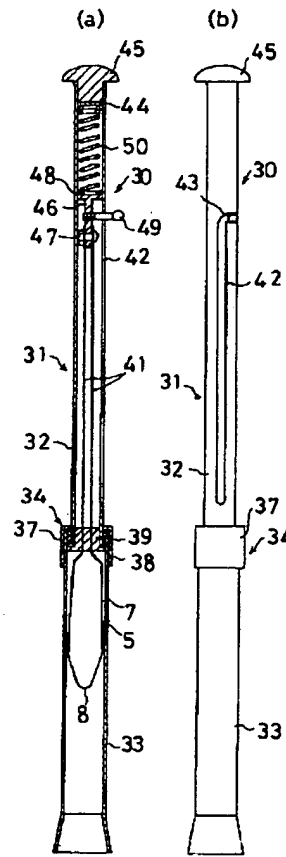
【図8】



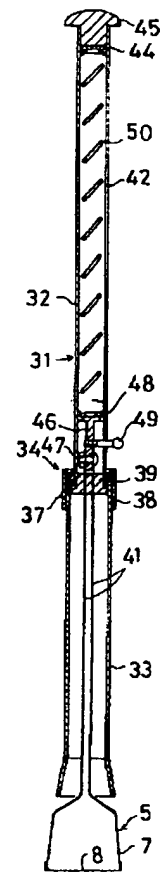
【図9】



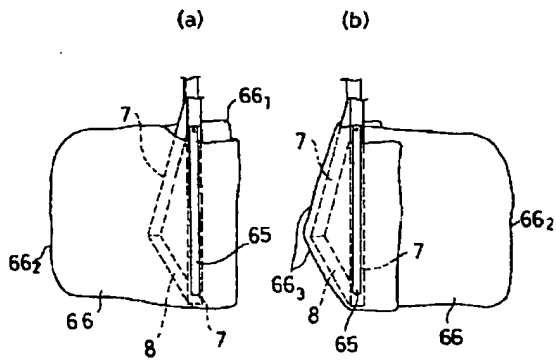
【図10】



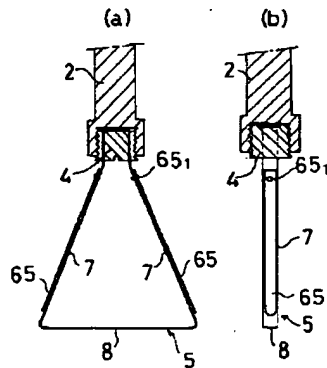
【図11】



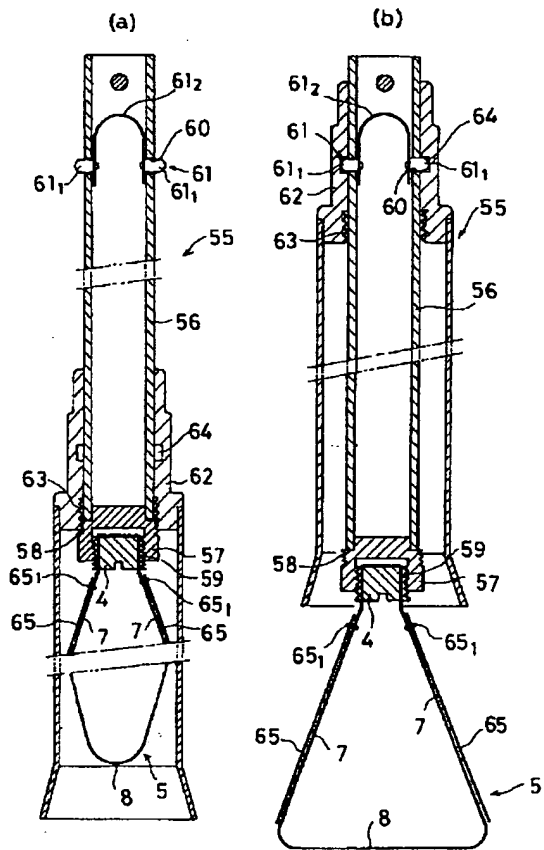
【図15】



【図17】



【図14】



【図18】

